

令和4年度

政務活動費 共通経費 整理表

会派等の名称	奥州みらい
--------	-------

政務活動費(共通経費)支出整理票			整理番号	02 - 01
			支出整理日	令和 04 年 10 月 06 日
令和4年度	会派等名	奥州みらい	支出項目	調査旅費

共通経費額 (按分対象額)	48,512	円
------------------	--------	---

使途：奥州みらい会派行政視察旅費（兵庫県養父市、豊岡市）

視察日：10月5日（水）～6日（木）

No.	支出の明細	支出日	領収書金額	対象外	対象支出額
1	ジャンボタクシー(役所～空港)	R04-10-05	19,370		19,370
2	ジャンボタクシー(空港～役所)	R04-10-06	18,670		18,670
3	視察先（養父市）タクシー代	R04-10-05	850		850
4	視察先（養父市）タクシー代	R04-10-05	930		930
5	阪急電鉄	R04-10-06	690		690
6	阪急電鉄	R04-10-06	690		690
7	モノレール	R04-10-06	400		400
8	モノレール	R04-10-06	400		400
9	モノレール	R04-10-06	400		400
10	視察先お土産（2か所分）	R04-10-04	6,112		6,112
合 計			48,512	0	A 48,512

共通経費 按分表	連番	議席番号	議員名	割合(B)	按分額(A×B)
	1	3	菅野 至	1/6	8,085
	2	7	佐々木 友美子	1/6	8,085
	3	15	千葉 康弘	1/6	8,085
	4	18	廣野 富男	1/6	8,085
	5	19	及川 佐	1/6	8,085
	6	25	小野寺 重	1/6	8,085
	7				
	8				
	9				
	10				
按分人数		6	合 計	48,510	

(注意) 按分額の合計は、端数整理（円未満切り捨て）により共通経費額と一致しない場合があります。

備考

領収書

毎度ご乗車ありがとうございます。

車両番号 583号

2022年10月06日

乗車料金
¥18670円

上記の通り正に領収致しました。



株式会社北都交通
奥州市水沢区字三本木4-42
☎ 0197-24-3111

領収書

毎度ご乗車ありがとうございます。

車両番号 583号

2022年10月05日

乗車料金
¥19370円

上記の通り正に領収致しました。



株式会社北都交通
奥州市水沢区字三本木4-42
☎ 0197-24-3111

領収書

毎度ご乗車ありがとうございます。

車両番号 006208号

2022年10月05日

乗車料金
¥930円

立替金
円

上記の通り正に領収致しました。

丸八観光タクシー(有)
〒667-0021
兵庫県養父市八鹿町八鹿1908-1
TEL 079-662-6208

領収書

毎度ご乗車ありがとうございます。

車両番号 006208号

2022年10月05日

乗車料金
¥850円

立替金
円

上記の通り正に領収致しました。

丸八観光タクシー(有)
〒667-0021
兵庫県養父市八鹿町八鹿1908-1
TEL 079-662-6208

(領収書等添付用台紙)

整理番号

02 - 01

領収書

取扱日時 2022/10/06 14:05
取扱売場 宝塚 102

取引内容 普通券購入
支払方法 現金(690円)

伝票番号 243351

お買上額 690円

・この領収書は大切に保管して下さい
・ご利用ありがとうございます

阪急電鉄

領収書

取扱日時 2022/10/06 14:05
取扱売場 宝塚 102

取引内容 普通券購入
支払方法 現金(690円)

伝票番号 243354

お買上額 690円

・この領収書は大切に保管して下さい
・ご利用ありがとうございます

阪急電鉄

No. 88334

領収証

奥州みらい様

取引金額 金400円
上記金額正に領収致しました

内訳
取引内容 乗車券類
大人 02枚 400円

・この領収証は大切に保存して下さい
・ご利用ありがとうございます

ご利用日付: 2022年10月-6日
當池駅 01号機発行
大阪モノレール株式会社

No. 88336

領収証

奥州みらい様

取引金額 金400円
上記金額正に領収致しました

内訳
取引内容 乗車券類
大人 02枚 400円

・この領収証は大切に保存して下さい
・ご利用ありがとうございます

ご利用日付: 2022年10月-6日
當池駅 01号機発行
大阪モノレール株式会社

No. 88335

領収証

奥州みらい様

取引金額 金400円
上記金額正に領収致しました

内訳
取引内容 乗車券類
大人 02枚 400円

・この領収証は大切に保存して下さい
・ご利用ありがとうございます

ご利用日付: 2022年10月-6日
當池駅 01号機発行
大阪モノレール株式会社

麻まち通り・中町
 八重吉煎餅店
 岩手県奥州市江刺中町3番12号
 TEL・FAX(0197)35-2708

2022年10月 4日(火)№0

2個 X 単2,800	
外税商品	¥5,600
2個 X 単30	
外税商品	¥60
小計	¥5,660
8%対象	¥5,660
8%税	¥452
現金 五十	¥6,112
(うち消費税等)	¥452

6589 7時21分

0000-5589

奥州 水戸様

領収証

2022年10月 4日(火)曜日

¥6,112-

(消費税等 ¥452)

担い、八重吉煎餅店
 八重吉煎餅店
 岩手県奥州市江刺中町3番12号
 TEL・FAX(0197)35-2708
 *貸借上の取扱い
 財布等で保管無く場合、印刷紙を内側に折って保管願います。

担当者

捺印: 019日

政務活動費 共通経費 整理票			整理番号	05 - 01
			支出整理日	令和 05 年 02 月 21 日
令和4年度	会派等名	奥州みらい	支出項目	広報費

共通経費額 (按分対象額)	183,245	円
------------------	---------	---

使途：奥州みらい会派会報「奥州みらい通信No.6」の発行と配布

No.	支出の明細	支出日	領収書金額	対象外	対象支出額
1	印刷代 18,000部	R05-02-21	118,800		118,800
2	振込手数料	R05-02-21	550		550
3	新聞折込料 17,390部	R05-02-21	63,125		63,125
4	振込手数料	R05-02-21	770		770
5					0
6					0
7					0
8					0
9					0
10					0
合 計			183,245	0	A 183,245

共通経費 按分表	連番	議席番号	議員名	割合(B)	按分額(A×B)
	1	3	菅野 至	1/6	30,540
	2	7	佐々木 友美子	1/6	30,540
	3	15	千葉 康弘	1/6	30,540
	4	18	廣野 富男	1/6	30,540
	5	19	及川 佐	1/6	30,540
	6	25	小野寺 重	1/6	30,540
	7				
	8				
	9				
	10				
按分人数		6	合 計	183,240	

(注意) 按分額の合計は、端数整理(円未満切り捨て)により共通経費額と一致しない場合があります。

備考

〒029-4201 (005433)

岩手県奥州市前沢古城字沖屋敷16

奥州市議会奥州みらい 御中

TEL 0197-56-4796

御 請 求 書

1/1

毎々格別のご対応に重き誠に有難うございます。
 下記の通り御請求申し上げますので、よろしくお願い申し上げます。
 ・お込み料金はなるべくお振込でお願いたします。
 ・ご入金がお振込と入れ違いの場合は、ご容赦下さい。

株式会社 北東北読売IS

本 社 岩手県盛岡市津志田町一丁目23番地
 TEL 019635-5566(代) FAX 019635-3967
 岩手県前沢支所 岩手県奥州市前沢古城14-10
 TEL 019735-3277(代) FAX 019734-4796
 振込口座 北日本銀行本店 普通預金 No.1618322
 岩手銀行本店 普通預金 No.2296861
 みずほ銀行前沢支店 普通預金 No.1348445
 口座名義 方) キタトウホクコミュニケーションズ

請求年月	売上額	消費税	入金日	入金額	次月繰越額	2023年02月度マシ締
10月迄	0	(繰越額)			0	
2022/11					0	
2022/12					0	
2023/01					0	作成年月日 2023.01.31
当月	当月売上額	当月消費税	入金日	入金額	当月請求額	
2023/02	57,387	5,738		0	63,125	当月御請求額 63,125

NO	品NO	品名	規格	数量	単価	金額
1	02/05-0006	奥州市議会会派通信	B4			
2		沿岸 県北 県南		17390	3,3000	57387
3						
4		(10%対象 57,387円 消費税				5738
5						
6						
7						
8						
9						
10						
11						
12						
13						
14						
15						
16						
17						
18						
19						
20						
21						
22						
23						
24						
25						
26						
27						
28						
29						
30						
31						
32						
33						
34						
35						
36						
37						
38						
39						
40						

ページ計 17390 63125
 総合計 17390 63125

2301311402

※印は軽減税率 (5%) 適用商品

登録番号 17-4000-0100-0240

奥州みらい通信

発行：奥州市議会 会派 奥州みらい
 連絡先：千葉康弘 ☎090-8924-3615
 奥州みらい代表 奥州市議会議員 及川 佐
 同 千葉 康弘
 同 廣野 富男
 同 小野寺 重
 同 菅野 至
 同 佐々木友美子



* 会派行政視察報告 * 会員議員紹介

奥州みらい会派行政視察報告

奥州みらいは、10月5日、6日の2日間、兵庫県の養父市及び豊岡市に会派視察を行いましたのでその概要を報告します。

◆ 兵庫県養父市

養父市においては、森林環境譲与税を活用した自伐型林業の取組みと国家戦略特区の取組みについて視察しました。

養父市は、兵庫県の北部に位置し人口24,288人高齢化率38%と過疎地域及び豪雪地帯指定を受けている農林業と観光が基幹の市で、但馬牛の生産地でもあります。

① 森林環境譲与税を活用した自伐型林業の取組みについて

「自伐型林業」は、森林経営・管理・施業を自ら行うもので、大型機械を使用せずチェーンソー・小型バックホウを使用し、低コストで環境保全的な林業を行うことを言い、不採算性を招く一般的な皆伐施業から多間伐施業による持続可能な儲かる林業を目指すものです。

養父市では、市内全域の経済林化を進めるため、森林環境税を活用しながら森林所有者と市と自伐プレーヤーが連携した自伐型林業を進めていました。

② 国家戦略特区の取組みについて

「国家戦略特区」とは、大胆な規制緩和により経済活性化の拠点をつくる仕組みで、養父市の提案に基づいて国が規制改革を主導、養父市をモデル地域として民間事業者が経済活動を実践。平成26年に「中山間農業改革特区」として一次指定を受けています。

特区制度を活用し中山間地域の価値を創造するために取り組んだもので、規制改革のメニューは10項目、認定事業数は26事業に及んでいました。



◆ 豊岡市視察報告

豊岡市は兵庫県の北東部日本海側に位置し人口77,489人面積697.7km² 8割が森林、城崎温泉スキー場があり年間の観光客420万人以上と観光に力を入れていました。コウノトリ育む農法や環境保全と経済が共鳴するまちづくりに取り組んでいます。視察では、カバン産業についてと太陽光発電について伺いました。

① 主力産業カバンについて

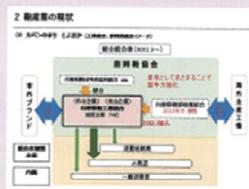
やなぎこうりに始まる豊岡のカバン作りは、かつての半分の規模49社、約1,000人の従業員、年間販売額100億円の産業であるが、日本カバン4大産地の一つに数えられています。カバン産業を育成し発展させるために工業団地やカバン産業振興にトヨタ・カバン・アルチザン・スクール(職人養成スクール1年) 鞆縫製者トレーニングセンター(4ヶ月)をつくり、人材育成に市・県が力を入れています。2つあったカバン組合を一つにし、メイドインジャパン豊岡鞆ブランドとしての高品質地位をつくるため組合・製造業者・市・県と共に取組み、世界に売り出す戦略を掲げています。

② 太陽光発電事業について

市内に太陽光パネル製造メーカーカネカソーラーテックが立地していたことも後押しとなり、山間地域の未利用地利用のモデルケースとするため、事業を開始しました。

3ヶ所で太陽光発電事業を行い、売電収入による積立金を大規模修繕や将来の施設撤去のために行っています。

山宮地場ソーラーは、スキー場だった場所をソーラー発電に活用したもので、未利用地の活用モデルであり、再生可能エネルギーに目を向けた取り組みが環境づくりの循環としてまち全体を豊かにしています。



奥州みらい議員活動報告

新たな江刺体育文化会館 (ささらホール)をめざして

及川 佐



公共施設等総合管理計画の「奥州市社会教育及びスポーツ施設再編計画」では奥州文化会館は2037年(令和19年)以降建替えしサービス提供継続、一方、江刺体育文化会館については「約6.3kmほど離れた市の中心部には、大・中のコンサートホール機能を持つ奥州文化会館がある。大規模な修繕は奥州文化会館に集約、江刺体育文化会館は、地元志向の催事に特化し、音響、照明施設は最低限の更新をはかる。令和19年を目途に機能は他施設を活用することとし、廃止を検討する。」「廃止までは必要な点検と補修を行う」とあり、建物には2037年以降解体撤去が明記されています。

現実には2037年(令和19年)よりも早く施設維持が不可能となる可能性が高く、17年間指定管理を受けてきたNPOいわてルネッサンスアカデミアが指定管理を受けない理由の一つでもあります。

この間の経過を見ると、指定管理者側から築53年のため施設の将来的な長寿命化や存続を含めたロードマップを示すことを求められてきたと思います。しかし指定管理者任せで、設置者である奥州市として具体的なプランは提起してきていません。このことは当事者意識を欠いた対応だと思います。

この江刺体育文化会館は江刺市時代から今日まで地域の文化芸術の中心的な施設として大きな位置を占めてきました。江刺体育文化館を「ささらホール」よびように獅子踊りの発表や市民文土劇の中心としてなくてはならない存在だと思います。17年間のNPOいわてルネッサンスアカデミアの「地域の元気の発信」に基づく活動に対して感謝を述べると今後も規模の大小にかかわらず芸術文化の発信の拠点として街づくりの中心のひとつとしてこの地に新たな施設が必要だと思います。



奥州みらい議員活動報告

建設環境視察より他市の事例

千葉 康弘



山形県鶴岡市で地域課題の解決に取組むNPOの研究を受けました。このNPOはプロ集団(建築・建設・不動産・解体業者・司法書士)と市の官民連携で運営され、狭い道・無接道・救急車も入れないなど民間では低廉事業として不採算、市場流通が難しい物件でも公共の利益のため活動しています。課題である狭い道、空き家・空き地を解消し居住環境を整え土地の市場性を高めています。これは、道路部分を市に寄付することで幅6mとなり新築可能にしたものです。道路幅により、車の通行や救急車も入れるなど生活の利便性が向上しています。奥州市で同じような組織をつくれれば狭い道・空き家改善に結びつき、国の補助金を活用できます。

汚泥肥料の活用

奥州金ヶ崎行政組合では汚泥肥料を無料配布しています。普通肥料として登録しており頒布が増えない原因のひとつに臭気があります。広く使われるために臭気を減らす設備を提案しましたが、費用対効果が難しいとの返答であった。いま始点が焼却処理の現状を地域で活かす方法を今後も提案したいと思います。

水沢メイプル再生に思う

廣野 富男



昨年9月22日一ノ関市の定例会においてJ R一ノ関駅東口に隣接するN E Cフラットホームズ一関事業所跡地約8.36畝を既存の建物などの解体撤去費を含め約22億9千万円で取得する議案が二度の否決を経て1年半を要し今回、賛成多数で可決した。

一ノ関市は商業施設、公的施設、緑地公園、研究開発施設など具体的なイメージで、内6.12haは民間活用に向け活用案を示し、取得が決まりました。佐藤一ノ関市長の新春インタビュー(1月3日付岩手日日新聞)の中では、市民の間には跡地の利活用で多額の費用を投じることへの疑問視や行政が駅前の再開発などを進めることへの抵抗感もあるが、議論を重ねながら客観性、具体性、論理性を数字に置き換えて市民の理解を求めると述べていた。

昨年12月22日、本市の臨時議会においてメイプルに関する不動産鑑定委託料と継続支援補助金を含めた3,318万8千円の補正予算が賛成多数で可決した。当奥州みらいは、継続支援補助金は、入居している事業者や公共的機関の緊急的な支援は是としつつも、不動産取得を前提とした補正予算案は、取得の是非の議論がされず、市民説明も不十分とし、不動産鑑定委託料を削減した修正案を提出したが、残念ながら多くの議員の支持は得られず賛成少数で否決された。ただ討論において、メイプルを含めた中心市街地活性化ビジョンは立地適正化計画との整合を図り策定する、不動産鑑定は取得ありきではなくあくまで判断材料、入居している公共施設はメイプル閉店後もそのまま存続。ただ、ショッピングセンターとしては厳しく、まちづくりという視点で若い世代が育つ未来投資の場としたい、という基本的な考え方が明らかになった。

一ノ関市をはじめ、倉成市長が紹介した徳島駅前再開発ビル「アミコビル」など全国各地で民間活力を活かしたまちづくりは盛んであるが、先例の地は十分な議論と市民説明がされている。

一昨年のボイラー補助金に係る補正同様、限定的措置を理由に十分な情報公開や市民説明がされないままの提案は改めてほしい。

未来に向かって夢を持てる まちの実現を目指して

菅野 至



今年度から新人議員として活動を始めた菅野至です。会報には初登場ですので、少しだけ自己紹介をさせていただきます。私は、江刺玉里出身の47歳です。39歳の時に会社を辞めて地元玉里に農事組合法人を立ち上げました。現在は役員として農業と法人の経営を行っています。また地元では、鹿踊り団体や消防団、振興会などの地域活動や、J A江刺では青年部の支部長を務めるなど、その活動にも積極的に参加しました。議会の活動としては、経済産業常任委員会と議会広報広報委員会に所属、また奥州金ヶ崎行政組合の議員としての活動も行っており、これまでの経験を生かし日々活動しています。

私は「市民みんなが、未来に向かって夢を持てる、そんなまちをつくりたい」という思いのもと、この10か月間は、主に農業と教育について取

合併効果と課題探る

小野寺 重



奥州市は平成18年に合併し、豊かな自然、豊饒な大地、そして優れた先人の英知とたゆまぬ努力により脈々と受け継がれた歴史、文化、伝統といった有形、無形の資源が豊富であり、それらを活用しながら、目指す都市像である「歴史息づく健康文化都市、産業の力みなぎる副都心」を目標に本年度17年目に入りました。変わりゆく年を見据え総合計画も3期に入りました。当市の課題として人口減少が最大の課題となっています。平成17年人口は130,171人で県内第2位でしたが、令和3年には111,300人まで減少し65歳以上が35.2%となっております。また生産人口年齢(15~64歳)の割合が低くなっており、

一方国からの財政支援が右肩下がりの中で、財政健全化に向けた取り組みも急務でありました。

今回の合併検証は令和2年で合併し15年が経過したことから行われ、各種データや市民のアンケートを基に、合併以来本市が進めてきた施策等について総合的、客観的に検証し、今後の市政運営や行政改革を推進するにあたっての重要な足掛かりとすることを目的としたものであります。報告書は資料編と合わせ206ページに及びもので一部を詳解します。

行財政基盤関係で職員の定員適正化計画に基づき定年退職者の5分の1採用により合併時の1,467人より403人の削減を実現し約28億円もの経費の節減になりました。第三子以降の保育料の無償化により保護者の負担が軽減されました。医療費負担に対する助成制度を拡大するなど、負担が軽減されました。数多くの市民サービスの改善も図られましたが、改善を図るべきまちづくりの課題も出てきました。人口減少と人口対策は市の根幹に関わる大きな課題であり、定住や交流人口増加のための諸施策に係る分析や検証をすべくであり、その内容や市政運営の状況を積極的に情報発信していくべきです。

これからのまちづくりには若者の関わりが必要不可欠であり、検証に際して若者が中心になるべきではないが、など皆さんの意見を大切に、まちづくりを進めることが重要だと痛感しました。

JR水沢駅通路にエレベーター設置 佐々木 友美子 ユニバーサルデザインにより利便性を向上させたい



まちづくりの視点で高齢者の活性化・賑わい創出 各種交通の結節点

JR水沢駅の地下道：通称「中央地下道」は、開通から50年近くたっています。入口付近の漏雨も発生し、老朽化が進んでいます。

そこで、通路にエレベーターを設置し、ユニバーサルデザインにより利便性を向上させたいと考えています。「高齢者が利用しやすい・子育て中の方がベビーカーを利用できる・障がい者が利用しやすい・自転車も移動できる・便利な駅・明るい駅・東西の行き来がしやすい」そんな駅通路です。さらに、利便性が高まれば、「東出人流の活性化・賑わい創出・各種交通の結節点」となり、まちづくりの観点として重要性が高まります。

このことについて、12月定例会で一般質問をしました。市長からは次のような答弁がありました。

市長答弁要旨

平成22年3月に策定した「奥州市都市計画マスタープラン」において、水沢駅周辺を都市機能の集積を踏まえた本市の「中核的な都市拠点」として位置づけしており、恵まれた好条件を活かし、各種都市機能の強化・充実を図ることとしています。

現在策定に向け取り組んでいる「奥州市立地適正化計画」においても、この都市計画マスタープランの方針に則り、水沢駅周辺を中心都市拠点として位置づけ、駅を中心とした各誘導区域や誘導施設を設定し、居心地が良く、歩きやすくなるまちなかをめざし、東西の人流活性化も含めた賑わい創出に繋がる取組について検討を進めています。水沢江刺駅を含めた構想も必要だと思っています。

ユニバーサルデザインの視点は欠かせず、子育て世代や高齢者、障がい者にやさしい構造であるべきと私も思います。



組んできました。農業では、遊休農地の有効活用と市の農業に対する支援について質問しています。教育では、主に江刺東部4地区で進められている幼保施設と、5小学校の統合に関する質問をしています。また、学校統合と関連して、空校舎の有効利用について市長に質問したところ、市有財産の利活用は重要課題であるとの前向きな答弁がありました。

またこの他に、地域おこし協力隊について質問しました。地域おこし協力隊は、地域活性化の手段として全国的に注目が高い取組みです。奥州市で、様々な課題を残して昨年度末に任期満了を終了し、現在は1人も隊員がいない状況です。市当局には、今後受け入れを行う上でのような考えや体制で進めていくかを質問しました。市長からは、地域振興の有効手段として今後も前向きに取り組んでいくこと、前回受け入れでは課題が多かったが、次回受け入れの際には、その反省も踏まえて受け入れ態勢を整備するとの答弁を頂きました。今後様々な問題解決の場において、地域おこし協力隊の力が発揮されることで、奥州市が未来に向かって夢を持てるまちに近づいていくものと期待しています。